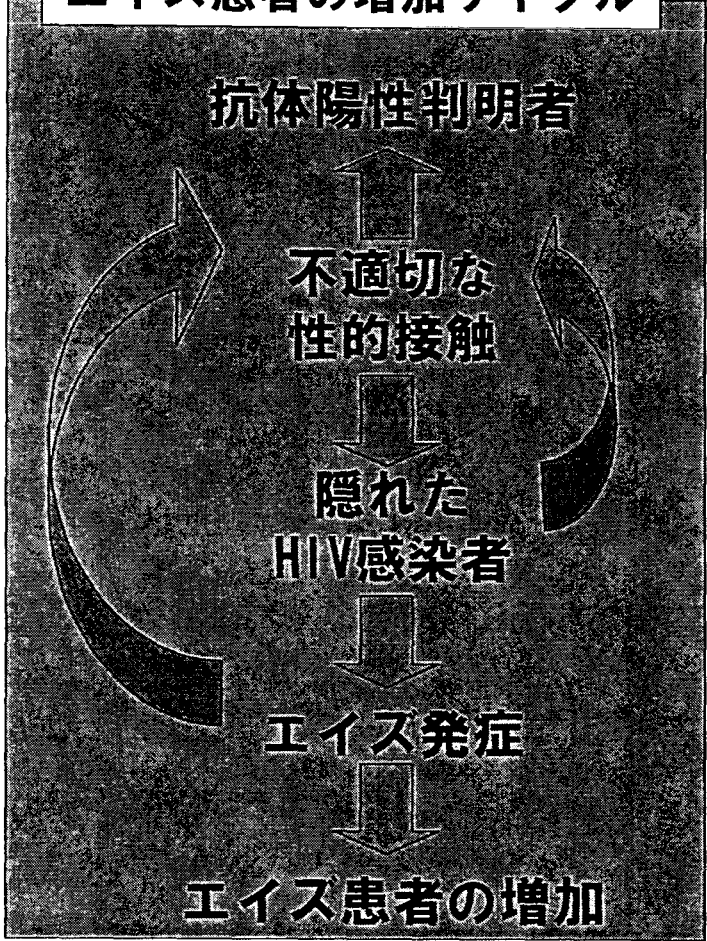


平成18年度 エイズ予防のための戦略研究の概要

別紙 2

エイズ患者の増加サイクル



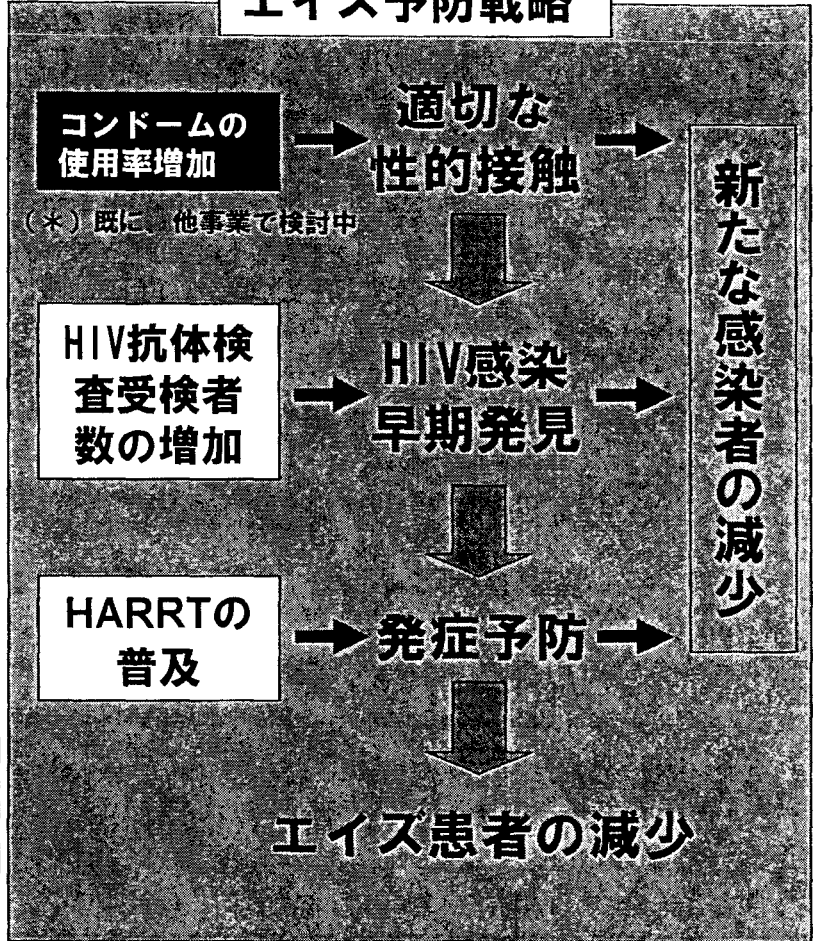
不適切な性的接触：コンドームの非使用
 隠れたHIV感染： HIV抗体検査受検者は感染者の2割程度と推定。
 エイズ発症： HIV感染・エイズ未発症者に対するHAARTのエイズ発症予防効果は非常に高い。

啓発普及戦略・広報戦略

HIV
 アウトカム
 センター

HIV抗体検査受検者・エイズ発症者を効果的に調査することを目的

エイズ予防戦略



アウトカム： HIV検査受検者数を2倍・AIDS発症者数を25%減少

対象： 課題1 首都圏及び阪神圏の男性同性愛者
 課題2 首都圏在住者

主要評価項目： HIV抗体検査受検者・AIDS発症者数
 広報戦略： 毎年、効果的な少数のメッセージを、期間集中的に多方面から発することを基本

エイズ予防のための戦略研究

	課題1	課題2
研究課題名	男性同性愛者を対象とした HIV 新規感染者及び AIDS 発症者を減少させるための効果的な啓発普及戦略の開発	都市在住者を対象とした HIV 新規感染者及び AIDS 発症者を減少させるための効果的な広報戦略の開発
アウトカム	HIV 抗体検査受検者数を2倍に増加させ、AIDS 発症者数を 25%減少させる。	HIV 抗体検査受検者を2倍に増加させ、AIDS 発症者数を 25%減少させる。
研究方法 〔対象(属性、数、抽出・登録・割付等)、介入方法、精度管理、収集データ(項目、時期、頻度)分析方法、その他〕	<p>阪神圏で行動する男性同性愛者(以下、MSMと略す)を対象に、1年に1度集中的(2-3ヶ月程度)に啓発普及活動を行い、かつ、阪神圏では希望者に対し在宅(郵送)HIV抗体検査を実施する。活動後1年間の医療機関・保健所でHIV抗体検査を受けた者および在宅HIV抗体検査を実施した者の数と、HIV感染者およびAIDS発症者の数を月ごとに測定。啓発普及活動は、4年間毎年実施し、HIV抗体検査受検者数とAIDS発症者数を毎年経時的に測定することによりその持続効果、蓄積効果を検証する。同時に、以下の調査を行う。</p> <p>① HIV抗体検査を実施した者に対してアンケート調査を行い、行動変容に対する効果とその要因を検証。</p> <p>② 在宅HIV抗体検査受検者の意識調査を実施し、在宅HIV抗体検査の有効性と危険性を検証。</p> <p>③ 首都圏と阪神圏の推移の比較及び両地区内の経年推移の比較により在宅HIV抗体検査の効果を検証。</p>	<p>東京都23区在住者を対象に、1年に1度集中的(2-3ヶ月程度)に広報キャンペーンを行い、活動後1年間の医療機関および保健所でHIV抗体検査を受けた者、在宅HIV抗体検査を実施した者の数とHIV感染者およびAIDS発症者の数を月ごとに測定。広報活動は、4年間毎年実施し、HIV抗体検査受検者数を毎年経時的に測定することにより、広報キャンペーンの持続効果、蓄積効果を検証する。同時に、在宅HIV抗体検査受検者の意識調査を実施し、在宅HIV抗体検査の有効性と危険性を検証する。広報キャンペーンは、毎年、効果的な2-3のメッセージを、期間集中的(2-3ヶ月程度)に、多方面から発することを基本とする。</p>
その他 必要事項	MSMを対象とした啓発普及戦略の策定、MSMを対象としたHIV感染者およびエイズ感染者の治療のための医療ネットワークの構築、首都圏のHIV抗体検査受検者を効果的に調査するためのHIVアウトカムセンターの構築、予算規模	東京都23区在住者を対象とした広報戦略の策定、東京都23区在住者を対象としたHIV感染者およびエイズ発症者の治療のための医療ネットワークの構築、首都圏のHIV抗体検査受検者を効果的に調査するためのHIVアウトカムセンターの構築、予算規模

別紙 3

平成19年度戦略研究候補課題(案)一覧

課題名	研究テーマ	期間	候補事業
感覚器戦略研究	視覚・聴覚障害者を20%低減させるとともに、障害者の社会参加を促進する障害保健福祉分野における介入・支援手法の確立に関する研究	平成19～23年度	感覚器障害研究事業
確実・安心な妊娠・出産のための戦略研究	生殖補助医療の標準化と短期的・長期的安全性確保のための研究	平成19～23年度	子ども家庭総合研究事業
次世代健全育成戦略研究	子どもの健やかな成長・発達を阻害する小児疾患の克服のための科学的基盤研究	平成19～23年度	
腎疾患対策戦略研究	腎疾患の発症、進展を予防し、血液透析を導入される患者の増加を打ち止める総合戦略の確立研究	平成19～23年度	調整中
高齢者運動機能回復のための戦略研究	高齢者運動器機能低下に適した臨床介入手法の開発研究	平成19～23年度	長寿科学総合研究事業